

CITY OF YOKOHAMA

横浜市アレルギー疾患に係る医療機関調査 報告書（概要版）

令和8年3月
横浜市医療局

医療機関調査概要

1 目的：

「アレルギー疾患対策基本法」及び「アレルギー疾患対策の推進に関する基本的な指針」に基づき、横浜市における総合的なアレルギー疾患対策を進めるために、「アレルギー疾患対策基本法」における対象疾患である「気管支ぜん息」、「アトピー性皮膚炎」、「アレルギー性鼻炎」、「アレルギー性結膜炎」、「花粉症」、「食物アレルギー」を中心に、横浜市の現況を把握し、施策を検討するための実態調査を、医療機関に対して実施した。

2 対象医療機関：

横浜市内に所在するアレルギー疾患に関連する診療科※を標榜する病院の診療科及び診療所

※内科（呼吸器科、呼吸器内科を含む）、小児科、皮膚科、耳鼻咽喉科（耳鼻科を含む）、眼科、アレルギー科

※1つの病院で複数の対象診療科がある場合は、診療科ごとに回答

3 調査方法：

依頼文を郵送配布、横浜市電子申請・届出システムより回答

4 調査期間：

令和7年5月16日（金）～ 6月13日（金）

5 回収状況：

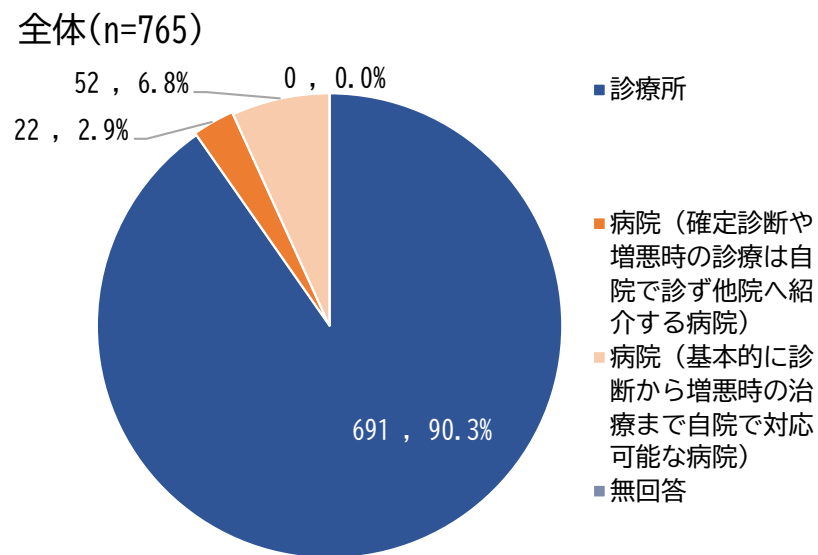
配布数	回答数	回収率
3,058件	765件	25.0%

医療機関調査結果まとめ①：基礎情報・診療・診断の状況

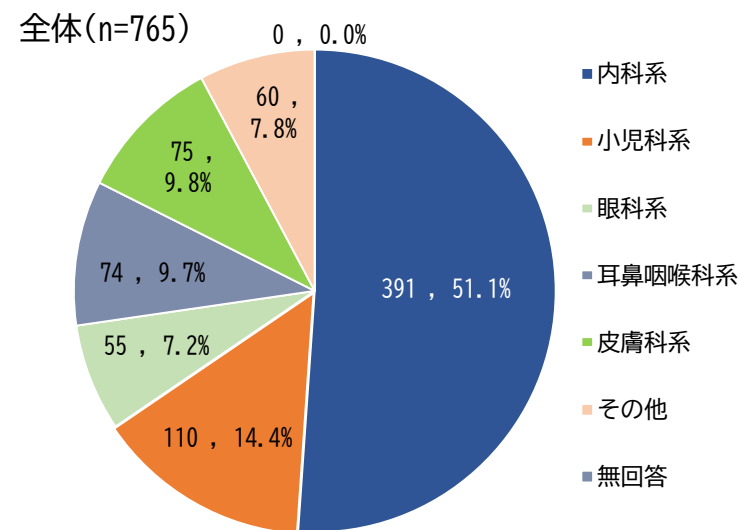
<基礎情報>

- 回答した施設の種類について、「診療所」は90.3%、「病院」が9.7%であった。
- 主たる診療領域について、「内科系」の割合が51.1%と最も高く、次いで「小児科系」が14.4%であった。

【施設種類】



【主たる診療領域】



<各アレルギー疾患の診療・診断状況>

※「その他アレルギー」を除く

項目	気管支ぜん息	アトピー性皮膚炎	アレルギー性鼻炎	アレルギー性結膜炎	花粉症	食物アレルギー	
問6:診療	68.9%	50.4%	70.3%	55.8%	90.4%	48.6%	
問7:診断	自院で診断可能	38.0%	49.0%	50.7%	43.6%	62.7%	36.6%
	自院で一定程度診断し、必要時に専門医療機関へ紹介	54.5%	44.6%	43.7%	49.6%	33.8%	59.9%

※問6：診療状況は「小児のみ診療する」「成人のみ診療する」「小児と成人を診療する」の合計

医療機関調査結果まとめ② : 診療・診断・紹介(逆紹介)状況

<各アレルギー疾患の診療・診断・紹介(逆紹介含む)状況>

※「その他アレルギー」を除く

項目		最も高い	最も低い(※)		
問6:診療		花粉症	90.4%	食物アレルギー	48.6%
問7:診断	自院で診断可能	花粉症	62.7%	食物アレルギー	36.6%
	自院で一定程度診断し、必要時に専門医療機関へ紹介	食物アレルギー	59.9%	花粉症	33.8%
問12:他医療機関へ紹介先がある		アトピー性皮膚炎	53.4%	花粉症	27.2%
問16:逆紹介の対応状況として、ほぼ全例で逆紹介を受け入れ可能		花粉症	43.7%	食物アレルギー	23.5%
問18:状態安定患者の紹介について、逆紹介が基本		気管支ぜん息	74.3%	食物アレルギー	56.3%

項目	1位	2位
問15: 紹介先医療機関に求めること	紹介の基準となる病状等の情報提供 59.6%	自院での継続治療への助言 49.1%
問17: 逆紹介の受け入れが困難な理由	診療領域外/専門的な治療ができない 23件	・専門医/専門としている医師 がいない ・診療形態や運営上の制約 7件
問19: 状態安定患者の紹介で課題と感ずること	患者の同意が得られない 44.2%	紹介先医療機関における、診療可 能範囲の情報が少ない 34.6%

※問12・15・16・17は、「診療所」「病院(確定診断や増悪時の診療は自院で診ず他院へ紹介する病院)」が、問18・19は「病院(基本的に診断から増悪時の治療まで自院で対応可能な病院)」がそれぞれ回答対象。

- 「花粉症」は自院で診療・診断が完結できる割合が高い一方、「食物アレルギー」は自院で診療・診断可能な医療機関の割合が他疾患と比べると低い傾向にあった。
- 逆紹介の対応状況について、「食物アレルギー」においては「ほぼ全例で受入可能」、「状態安定患者は逆紹介を基本としている」と回答した医療機関の割合がともに低かった。
- 患者紹介に関して、紹介先医療機関における「受け入れ可能な病状」や「診療可能範囲」に関する情報のニーズが高かった。

医療機関調査結果まとめ③：アレルギー診療における課題や期待

<アレルギー診療における課題や期待について>

項目	1位	2位
問20: アレルギー診療で課題と感ずること	紹介先・逆紹介先医療機関の情報が少ない 35.9%	重症患者を診療できる医療機関の情報が少ない 35.0%
問21: アレルギー診療で最も課題と感ずること	紹介先・逆紹介先医療機関の情報が少ない 30.4%	重症患者を診療できる医療機関の情報が少ない 26.3%
問22: 最も課題だと感ずる理由(自由記載)	診療報酬が低く経営が成り立ちにくい状態であるため 30件	適切な紹介先の把握や医療連携の体制が十分に整っていない面があるため 25件
問23: アレルギー疾患医療拠点病院に期待すること	紹介の基準となる病状等の情報提供 50.2%	診療内容に関する相談窓口 37.1%
問24: アレルギー診療の提供体制(診療連携体制等)整備が必要だと考ずること	アレルギー中心拠点病院や都道府県アレルギー疾患医療拠点病院による情報発信 59.3%	研修会や講演会等の開催 38.0%
問25: アレルギー施策について行政に期待すること	情報提供・啓発活動の強化 17件	診療報酬・経済的支援の拡充 16件

- アレルギー診療で課題と感ずることについて、施設種別でみると、『診療所』は「重症患者を診療できる医療機関の情報が少ない」の割合が最も高く、『病院』では「紹介先・逆紹介先医療機関の情報が少ない」が最も高かった。
- また、アレルギー診療で最も課題と感ずることについて、施設種別では、『病院』は『診療所』よりも「アレルギー疾患の診療にあたり経営上の課題がある」の割合が高かった。
- アレルギー診療における課題や期待から、「紹介先/逆紹介先医療機関の情報」、「重症患者を診療できる医療機関の情報」、「研修会や講演会等の開催」を求めている医療機関が多かった。
- アレルギー施策について行政に期待することとしては、「情報提供・啓発活動の強化」の件数が最も多かった。アレルギー診療における課題をふまえ、診療連携体制整備の観点からは「医療機関に関する情報発信」等が求められている。